

## 医療技術者をめざす学生の心理学への関心

川崎医療短期大学 一般教養

片山 英雄

(平成2年9月29日受理)

Interest in Psychology : A Case of Students in Paramedical Course

**Hideo KATAYAMA**

*Department of General Education*

*Kawasaki College of Allied Health Professions*

*Kurashiki, 701-01, Japan*

*(Received on September 29, 1990)*

### 概 要

医療技術者をめざす学生が「心理学を学習してどんな事を知りたい」と思っているか、すなわち「心理学への関心」を調査した。

調査対象；川崎医療短期大学1・2年次生 2,420人

調査時期；1985～1990, 心理学の授業を始める直前に実施

その結果, 学生の関心は「自分や他人の心の把握」が多く, これは藤森の調査(心理学専攻生)と一致したが, 「精神のメカニズム」はそれほど多くなかった。また, 「医療の場の心理」への関心をもつ者が多いという特色がみられたが, これは医療技術者をめざす学生として当然であろう。

学科別に検討すると, この「医療の場の心理」への関心は, 看護科が一番高く, ついで放射線技術科, 臨床検査科とつづき, 医療秘書科が一番低く, 「他人の心の把握」に関心を向けていた。これは職場で患者と直接どの程度接すると学生が考えているかその度合いと関連していると思われる。

心理学の講義内容はこうした学生のニーズにこたえることも必要であろう。

### Abstract

In this study, we investigated what subjects were of interest to students in psychology; that is, what students who intend to join one of the allied health professions want to learn through their study of psychology.

subject ; 2,420 freshmen and juniors of Kawasaki College of Allied Health Professions

period ; 1985-1990

Each survey was conducted just before a lecture on psychology.

The results of the investigation showed that the students have a great deal of interest in understanding their own minds and those of other people, but not so many of them have an interest in the mechanisms of the mind. It seems natural that the results

showed a tendency for students in the nursing course to have the strongest interest in psychology in relation to medical care. Interest in this subject was also found in students of the radiological technology course, and the medical technology course. The students of the medical secretary course have an interest in human relation.

These results suggest the necessity to teach students in response to their needs in lectures on psychology.

## I. 研究の意図と目的

学習を効果的に進めるには適切な動機づけが必要であることは言うまでもない (Gagne 1977)<sup>1)</sup>。心理学の講義も学生のニーズに応じてはじめて効果が上がるであろう。彼らの知的好奇心を湧きたたせ、内発的動機付けをもたらすことが大切である (波多野, 稲垣 1973)<sup>2)</sup>。このことは教える側にとっても重要である。カリキュラムで指定しているという理由だけで、学問体系の一部を学生向きにアレンジして与えればよいと言った教授者中心の考え方でのごんごんしていたら学生から遊離してしまう。教える側もまた意欲を失う事になってしまうであろう。

1983年に短大で心理学を教え始めた。それまでは Teaching Analyzer を用いた教育工学的授業分析の研究を続けており (片山, 坂田 1980, 1982, Sakata, Hirai and Katayama 1983)<sup>3,4,5)</sup>, 指導効果の把握に強い関心を持っていた。ところが一方的な講義形式となり学生の理解度の実態が把握できず戸惑ってしまった。と同時に心理学のどの分野に重点を置いて指導するのが望ましいかという学生の関心もとらえにくくて困っていた。

その時、藤永(1981)<sup>6)</sup>の「心についての疑問」の調査報告が目についた。心理学専攻の女子学生43人に「心についてどんな事をいちばん疑問とし、知りたいと思うか」と質問し回答を分析したものである。これはよい手がかりになると考え授業計画の参考にすると共に、1984年にはその要点を学生にも紹介した。さらにすすんで自分の指導する学生の興味・関心をつかみたく、また学生自身にも自分の学習目標を持たせ授業終了後にどんな事が理解できたか反省させたいと考えた。そこで、1985年より講義を始める直前に「心理学の学習で知りたい、学びたい疑問や問題」を記述させ分析する事を始めた。今年で6年が経過したので学生の関心の傾向をまとめて報告する。特に医療技術者をめざす学生の特色を探る事に焦点を当てたい。

## II. 方 法

### 1. 調査対象と調査時期

川崎医療短期大学 1・2年次生 2,420名

調査期間 1985~1990

年次別調査対象人数は表1のとおりである。

- 学科名の前のN, MT…は、その学科名の略号である。'85は、1985年を示す。以下同じ。
- 空欄はカリキュラムの関係やその学科が未設置で講義の無かった年である。
- 実施時期は4月はじめがほとんどだが、MT, RTには9月に実施した場合もある。

表1 年次別調査人数 (人数)

学 科	'85	'86	'87	'88	'89	'90	計
N I, II看護	108	115	113	106	117	109	668
MT 臨床検査	70	60	—	55	58	57	300
RT 放射線技術	58	71	59	55	50	47	340
MS 医療秘書	95	106	97	98	117	107	620
MN 栄 養	55	53	60	53	58	53	332
ME 医用電子	—	—	—	54	53	53	160
計	386	405	329	421	453	426	2,420

●実施した学年はN, RT, MN, MEは1年次, MSは2年次, MTは'85~'86は1年次, '88~'90は2年次である。

## 2. 調査方法 質問文と分類

心理学の講義を始める前に学生に次の質問文を示し自由に記述させた。

[質問文]:「これから心理学を学びますが,自分が心理学を学習して知りたい,学びたいと思っている疑問や問題を書きなさい」

学生回答の分類 藤永(1981)<sup>6)</sup>は「他人の意志・他人の心を知る可能性,自分の心の客観的把握の可能性,感情のメカニズム・精神の病理,心と身体・心と大脳・心の座位,人と人格・人と道徳,心の形・実体,心の性差,心の連続性,その他」と分類していた。これを参考にし,さらに本学の学生には「患者の不安やこれに対する処置」など医療の場に関する事項が多くみられたことを考慮して次の6項目にした。

[分類項目]:「自分の心の把握,他人の心を知る,精神のメカニズム,性格と発達,医療の場の心理,その他」

実際の調査は,各自で10~15分間くらい自由に考えて記述させた。その後で数名に発表させて共通点や相違点がある事を話し合わせ,いくつかの主要な分野のある事に着目させた。次に,前年度の学生の傾向を紹介し,それぞれ自分の問題はどの分類項目に属するか各自で分類させて提出させた。分類の適切でないと思われるものがあれば修正して集計した。

## Ⅲ. 結 果

### 1. 代表的回答文

1990年度の学生の代表的な回答文をそれぞれの項目ごとに示す。ほぼ原文のとおりであるがひとりで複数の回答をしている場合もあるので若干の修正・整理をしている。

[自分の心を知る]

IN1, no 17 I.O.; 自分の感情が一時的にはあるが混乱する時がある。自分が何を望んでい

るのか、何をすればいいのか分からない時がある。まだ自分がかめずにいるので、まず自分を理解したい。

MT2, no 1 A.A.; 病院実習が始まってから時間やデータとの戦いで、自分の中から人間味とかいろんなものへの感情がなくなってしまう気がする。このあたりを見直したい。

[他人の心を知る]

MS2, no 71 Y.N.; 人間関係を円滑にし、コミュニケーションをうまくはかるには、その対象である人の考えている事が分からないとうまくできない。だから、人間の内面で考えている心理を学ぶ事によって人間をより深く理解できるようになりたい。

MS2, no 103 J.Y.; 人はよく落ち込んでしまうが、その時相手はどういう心理なのか、そしてどういう言葉をかけてほしいのだろうか。また、何気ない言葉で傷つけてしまうが、その時の相手の心理はどうなのかと言う事を知ってこれからの生活に役立てたい。

[精神のメカニズム]

ME1, no 35 K.N.; 人が行動を起こすときなぜそのような行動を起こすのか、その時の気持ちを知りたい。

MS2, no 61 E.T.; 人が話す言葉だけで人を理解するのではなく、その人の話しているしぐさや目の動きを見て、その人自身を理解して上げる事が出来るように学んでいきたい。

[性格と発達]

MT2, no 57 Y.Y.; どういう言葉を選べば相手の心が動かされるかとか、赤い色の好きな人はどういう性格の人かなど十人十色の人間性に興味がある。

ME1, no 2 M.I.; ずっと前から自分は内向的であったが、本質的なものはそのままですしずつ変わってきているように思う。自分の性格はいつ頃決まってしまうのか、また全く変えてしまうことが出来るのだろうか。

[医療の場の心理]

2N1, no 4 S.A.; 看護婦というのは患者さんが今何を思っているのか、絶えず考えていなければならない。患者さんの態度や行動からそれを読みとる事が出来るように心理学を学びたい。

MT2, no 54 M.M.; わたしたちは生理機能検査で患者さんに接するがいつもきまった言葉しかかけてあげられない。患者さんが本当に喜んでくれるような少しは違った言葉をかけて上げたい。

MT2, no 49 M.F.; とても苦痛をおぼえるような検査の時でも、私たち学生に「そんなに緊張しなくても良いよ、少々失敗してもいいからね」と声をかけて下さるけれど、それはただ優しいとか気をつけているだけではなく、そう言うことで自分自身を落ちつけているんだなあと思う。そのところをもう少し詳しく知りたい。

[その他]

MT2, no 13 Y.U.; まず「心理学」という言葉しか知らないの、いったいどういう学問なのかそのへんから学びたい。

表2 項目別回答数一覧

(回答数)

項目	学科	'85	'86	'87	'88	'89	'90	計
自分の心の把握	N	15	17	15	18	17	17	99
	MT	11	12	—	19	11	5	58
	RT	1	12	2	6	4	8	33
	MS	5	14	13	24	6	16	78
	MN	3	4	13	2	7	7	36
	ME	—	—	—	4	6	6	16
他人の心を知る	N	18	30	40	31	21	37	177
	MT	20	10	—	10	21	19	80
	RT	5	10	17	14	22	19	87
	MS	45	24	24	24	47	49	213
	MN	6	17	15	18	21	10	87
	ME	—	—	—	28	16	22	66
精神のメカニズム	N	20	37	22	20	15	15	129
	MT	15	18	—	13	4	9	59
	RT	19	18	12	13	3	6	71
	MS	24	33	31	24	35	22	169
	MN	23	23	15	8	9	3	81
	ME	—	—	—	9	9	9	27
性格と発達	N	22	17	9	11	21	11	91
	MT	15	9	—	4	0	4	32
	RT	5	9	3	2	1	7	27
	MS	8	13	12	17	6	9	65
	MN	16	4	16	8	7	8	59
	ME	—	—	—	5	7	5	17
医療の場の心理	N	17	42	43	54	60	35	251
	MT	5	15	—	8	36	21	85
	RT	8	15	11	30	29	11	104
	MS	10	9	5	4	5	8	41
	MN	1	4	13	14	20	17	69
	ME	—	—	—	8	13	8	29
その他	N	22	15	4	8	10	7	66
	MT	4	5	—	4	1	9	23
	RT	10	5	7	3	4	0	29
	MS	14	12	3	5	8	6	48
	MN	10	3	4	2	3	4	26
	ME	—	—	—	0	8	4	12

## 2. 回答の項目別分析

学生の回答を集計して表2に項目別回答数を示した。次に年次別・項目別に整理して表3に、学科別・項目別にまとめて表4に示した。

項目	'85	'86	'87	'88	'89	'90	計
自分	35	59	43	73	51	59	320
他人	94	91	96	125	148	156	710
メカ	101	129	80	87	75	64	536
性格	66	52	40	47	42	44	291
医療	41	85	72	118	163	100	579
他	60	40	18	22	34	30	204
計	397	456	349	472	513	453	2,640

項目	N	MT	RT	MS	MN	ME
自分	99	58	33	78	36	16
他人	177	80	87	213	87	66
メカ	129	59	71	169	81	27
性格	91	32	27	65	59	17
医療	251	85	104	41	69	29
他	66	23	29	48	26	12
計	813	337	351	614	358	167

## IV. 考 察

## 1. 年次別の傾向

年次別の傾向を集計した表3をもとに百分率を求めて図1に表した。

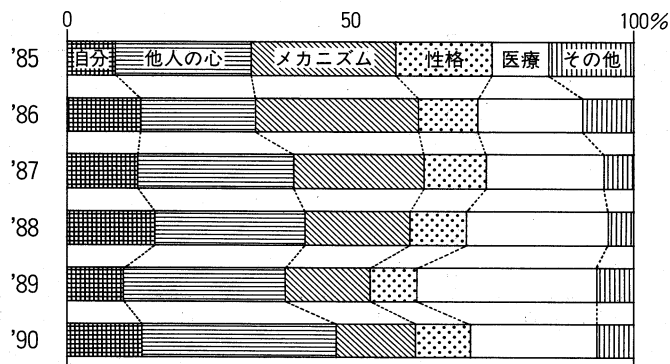


図1 年次別の傾向

1985年は、「精神のメカニズム(25.4%)、他人の心を知る(23.7%)」といった一般的な分野に関心が向く者が多かった。藤永(1981)<sup>6)</sup>の心理学専攻の女子学生43人の調査では疑問総数98について「他者の心を知る、自己認識(27)」「感情のメカニズム(17)」「心と身体、心と大脳(18)」などの問題意識が主要なものであったとされている。本学の場合もこれに近いと言ってもよいであろう。しかし、年を経るにつれて「精神のメカニズム」は減少し、「医療の場の心理」に関心を寄せる者が徐々に増加してきている(1990は少し停滞しているが)。その理由は十分解明できてはいないが、入学時のオリエンテーション行事での指導や、学生間で先輩から実習現場の話聞くなど、医療系へ進む者としての自覚を目覚めさせる機会が多くもたれるようにな

り、医療の場での人間理解の重要性の認識が深まったためであろう。

2. 学科別の特色

学科別の特色を集計した表4をもとに各学科内の割合を求め、医療の場の心理の占める割合の多い順に配列し直して図2に表した。

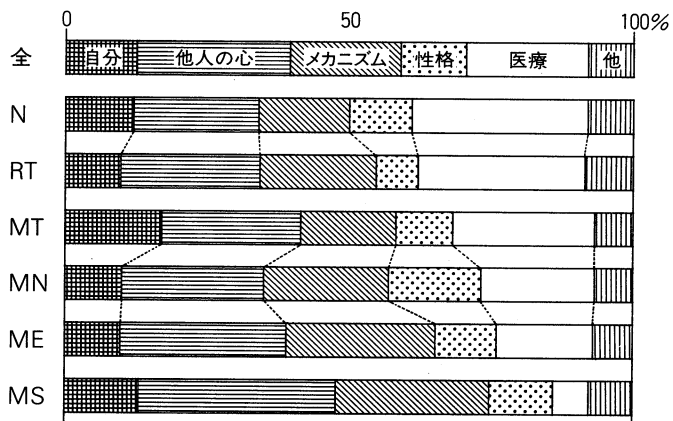


図2 学科別の特色

全体的にみると「他人の心」→「医療の場の心理」→「精神のメカニズム」→「自分の心」→「性格と発達」という順序である。

しかし、学科別に検討すると次のような特色がみられる。看護科・放射線技術科の学生は「医療の場の心理」に特に高い関心を示している。この傾向は臨床検査科へと続くが、栄養科・医用電子技術科ではだんだん減少し、医療秘書科が一番低い。

このような傾向の背景には学生が将来職場で患者と接する度合いの認識と関連していると思われる。そこで学生の意識を調査するために「職場で患者に直接どの程度接すると予想しているか」と質問し5肢選択で回答させた(1990年9月実施)。調査結果は表5のとおりである。

表5 患者に直接どの程度接するか (人数)

	N	MT	RT	MS	MN	ME
毎日、時には夜も	98	8	23	1	1	13
ほとんど毎日	10	12	19	19	7	17
時々ある		12	4	3	34	6
あまりない		7		6	11	7
ほとんどない				18	1	7

これによれば、看護科の学生は患者に直接ほとんど毎日、時には夜まで接して仕事をするという意識を持っている者が大多数であり、患者ときわめて密接な関係にあると考えている事が分かる。このことはまた、学生回答例2N1, no4 S.A.が「患者が今何を思っているのか、絶えず考えていなければならない……」と記述している事にも表れている。この傾向は放射線技術

科の学生にも見られ看護科につぐ高い関心を示すものになっているようである。

臨床検査科の学生は臨床実習の期間中に調査したので、いっそう具体的に回答している。回答例をみても患者の内面への強い関心(MT2, no 49 M.F.)を持ち、さらに、どういう対処が望ましいか(MT2, no 54 M.M.)を探ろうと考えている。ただし、看護婦のように日夜生活を共にするとは考えていないので、やや看護科の学生よりは低い水準にとどまっている。

これに対して、医療秘書科の学生は「他人の心を知る(34.7%)、精神のメカニズム(27.5%)」への関心が高く「医療の場の心理(6.7%)」は関心が低くなっている。医療秘書科は秘書という職種の特性から対人関係の重視に強く心をひかれるのは当然であろう。また一般企業への就職を希望する学生(表5に表れたように患者と接する事は無いと考えている学生が18人(38%))もいることを考慮するとこの傾向も理解できる。さらに、回答を詳細に検討すると1年次に「人間関係論」の講義を受けているので回答例 MS2, no 71 Y.N. にみられるように「人間関係を円滑にし、コミュニケーションをうまくはかるには、その対象である人の考えている事が分からないとうまくできない。だから、人間の内面で考えている心理を学ぶ……」と記述していることから良い人間関係をめざした観点に着目していることがとらえられる。

指導する側としては、こうした学生のニーズを考慮し、単に一般的な原理の解説に終始するのではなく、医療の場と結びつけながら基本的な人間行動の理解を深めるように心理学のカリキュラムを改善し、指導方法の工夫をする努力を重ねる事を忘れてはならない。

## 謝 辞

Abstract 作成に当たってご協力いただいた川崎医科大学特別講師 Mr. Waterbury, D.H.・川崎医療短期大学講師名木田恵理子先生に厚く感謝する。

## 文 献

1. GAGNÉ, R.M.: The conditions of learning. Holt, Rinehart and Winston, New York 1977  
(金子敏・平野朝久訳 学習の条件 学芸図書 1982)
2. 波多野諄余夫・稲垣佳世子: 知的好奇心 中央公論社 1973
3. 片山英雄・坂田注: 個別学習過程の LP 行列表示とその分析 日本教育工学雑誌 Vol 5 no 2, 1980
4. 片山英雄・坂田注: 小学校における関数概念の形成と指導についての実験的研究 日本教科教育学会誌 Vol 7 no 2, 1982
5. Hiroshi Sakata, Yasuhisa Hirai and Hideo Katayama: Using an LP Matrix to Express and Analyze Individual Learning Process. Proceedings of ICMI-JSME Regional Conference on Mathematical Education 1983
6. 藤永 保: 心とは何か 講座 現代の心理学1 小学館 1981